

よみがえった文化財 — 保存活用を支える修復技術 —



《山水図》(左隻) 伝 狩野元信
— 「よみがえった文化財」より —

- 特別陳列 没後30年 田中太郎 — 誠をつくす彫刻 — 【近現代彫刻】
- 名物裂の精華 【前田育徳会尊經閣文庫分館】
- 琳派と五十嵐派 【古美術】
- 特集 毎田仁郎 【近現代工芸】
- 近代からの書の風景 【近現代書】

- 友の会会員限定VRシアター体験イベント
- 学芸室の人々
- 1月の行事予定
- アラカルト ただいま展示中

新年のご挨拶

館長 青柳 正規

昨年に開催された「いしかわ百万石文化祭2023」の多種多様な催事は、石川県の文化と歴史の重厚な蓄積を改めて確認することができるものでした。特に当館と国立工芸館を会場とする皇居三の丸尚蔵館収蔵品展は「皇室と石川―麗しき美の煌めき」というタイトルにふさわしい展示内容だったことから記録的な来館者をお迎えすることができました。また、展示の冒頭を飾る「忍」という御水尾天皇の御宸翰は皇室と前田藩の特別な関係を如実に物語っており、四百年というときの隔たりを一挙にたどる思いがしました。

若冲をはじめとする貴重な作品をお貸しいただいた尚蔵館だけでなく、企画の段階から強力なご援助をいただいた北國新聞社、2館で「ひとつの展覧会」という提案を快く受け入れていただいた国立工芸館など関係各位のご協力をいただいたが故の結果であり、そのことに心から感謝を申し上げるとともに、これからも石川県の文化の振

興のために変わらぬご協力をいただきたいと心から願います。

この文化祭の期間中に開かれた金沢美術工芸大学の開学記念講演会では、元金沢市長の山出保氏から金沢市の文化政策の沿革をお聞きすることができました。加賀前田藩から連綿とつながる文化重視の土地柄をさらに発展させようと、時代の移り変わりを見事に読み解きながら様々な事業を実現していった山出氏の慧眼と実行力は驚異というほかありませんが、次の世代がさらに充実した文化事業を実現することがこれからの石川・金沢にとって必要であることを痛感いたしました。石川県立美術館も館をあげてより豊かな文化芸術を作り上げることに努力してまいる所存ですので、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

学芸員の眼

加賀藩5代藩主・前田綱紀は、全国の大名に先がけて明確な思想に基づいた文化財の保存修復を実施したことで知られています。そこで本展では、関連する史料から加賀における先進性を明らかにし、こうした歴史と伝統が、地方自治体としては最初となる文化財の保存修復施設を、公立美術館の付属施設として開設することに結実したことを、石川県文化財保存修復工房の実績を中心とした「よみがえった文化財」によって紹介します。そして地域の独自性の再認識とともに、文化財の保存と活用に対する今日的な理解の在り方の一例として、なら歴史芸術文化村が推進するレプリカへの取り組みも紹介します。今回は、演奏会など多彩な関連行事も開催します。様々なアプローチから本展を楽しんでいただければ幸いです。



聖林寺十一面観音菩薩立像 構造模型（背面） 奈良県蔵

企画展示室(第7・8・9展示室)

よみがえった文化財—保存活用を支える修復技術—

特別協力 北國新聞社、公益財団法人 前田育徳会、なら歴史芸術文化村

協力 一般財団法人 石川県文化財保存修復協会

後援 NHK金沢放送局、MRO北陸放送、石川テレビ放送、テレビ金沢、HAB北陸朝日放送

1月4日(木)～2月12日(月・休) 会期中無休

加賀藩主・前田家は文化財保護に高い意識をもって先駆的に取り組んでおり、その精神は今日まで石川県に継承されています。石川県立美術館も開館以来、館内のスペースを利用して文化財の修復に取り組み、1997年に付属施設として石川県文化財保存修復工房が開設され、2016年には美術館の広坂別館に隣接してリニューアルオープンし、主として地元北陸の文化財修復の拠点となるべく実績を重ねています。

本展は、文化財修復を改めて地域文化の本質的な独自性と位置付け、藩政期から修復工房開設に至る石川の文化風土を再認識しつつ、文化財の保存・修復の成果を技術面に主眼を置いて紹介するとともに、地域間の連携など、これからの文化財活用を展望するものです。

観覧料

一般 1,000円(800円)

大学生 800円(600円)

高校生以下無料

※2階コレクション展観覧料を含む

※()内は65歳以上の方および20名以上の団体

※身体障がい者・精神障がい者保健福祉・療育手帳を

お持ちの方、またはミライロIDをご提示の方お

よび付き添いの方1名は観覧無料

関連行事

■記念講演会「石川県文化財保存修復工房の成り立ち」

日時…1月21日(日) 13時30分～15時

会場…石川県立美術館 ホール

定員…200名 ※当日先着順

講師…中越一成氏(石川県文化財保存修復協会理事)

事兼相談役)

※申込不要・参加無料

■ミュージアム・コンサート

「よみがえったチェンバロ」

日時…1月28日(日) 13時30分～15時

会場…石川県立美術館 ホール

定員…200名 ※当日先着順

演奏…加藤純子氏

※申込不要・参加無料

■ワークショップ「屏風レプリカを作ろう」

日時…2月4日(日) 13時30分～15時

会場…石川県立美術館 講義室

対象…小学生以上(小学生は保護者同伴)

定員…20組(1組2名様まで)

※Peatixにて事前申込制

下記2次元コードよりアクセスしてください

※参加無料

■寒糊炊き

日時…1月20日(土) 9時30分～15時

会場…文化財保存修復工房周辺

※申込不要・見学無料 ※荒天中止



修復前



修復後

石川県指定文化財《阿弥陀如来立像(白山下山仏)》(尾添区蔵)

名物裂の精華

1月4日(木)~2月12日(月・休) 会期中無休

特別陳列 没後30年 田中太郎—誠をつくす彫刻—

特別協力 石川県七尾美術館

1月4日(木)~2月12日(月・休) 会期中無休

2023年に没後30年を迎えた石川県七尾市出身の彫刻家・田中太郎を特集します。田中は寺院建築の装飾彫刻を学んだあと彫刻を志して上京、当時木彫の第一人者であった平櫛田中に師事します。所属していた日本美術院彫塑部解散後は公募展への出品を辞し、自らの作風を追い求めました。

田中の作品は、独自のスタイルをもちます。確かな修行に裏付けられた技術を基礎として、写真からデフォルメの間を自在に行き来しつつ、しかしどの作品も田中の作品であることをしっかりと主張します。また、意表をついた組み合わせをひとつの作品にまとめる発想力と表現力にも優れており、人と昆虫

が融合したような造形や、ややもするとバランスが崩れそうな思い切った造形を成立させる手腕をもちます。また、優しく信心深い人柄があらわれた鑿のタッチからは、対象へのあたたかいまなざしが感じられます。師の「誠をつくし、心をこめて彫る」ということをモットーに生み出された田中の作品群は、いまも観る者をひきつけてやみません。

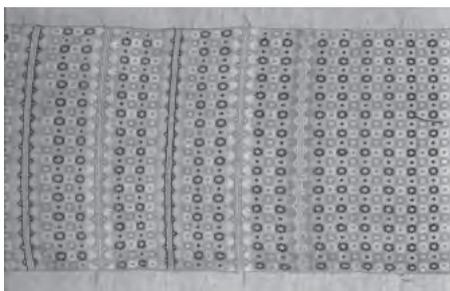
本展では、乾漆や版画も含めた幅広い制作活動、制作中の様子や文化財修復の活動なども含め、田中太郎の世界を紹介いたします。1月27日(土)には土曜講座を開催し、本展の見どころを紹介いたします。あわせてお楽しみいただけますと幸いです。

名物裂とは、わが国に舶載された裂のうち、特に珍重された裂の総称です。これらは書画の表装に用いられたほか、特に茶器の仕覆として愛でられました。茶人が愛用した裂地に『珠光緞子』『遠州緞子』などの固有の名称がつくのは、こうした由来があるからです。

前田家は、3代利常の時代の寛永14年(1637)、町人に見立てた家臣を長崎へ遣わせ、「銀子二十枚」で「古き唐織の切」を買い求めます。『三壺問書』という史料には、この時「有るに任せて価値は買取りて」、利常の「御機嫌殊の外よかりける」とあることから、買い求めた大量の裂に、利常が非常に満足したこ

とがわかります。事実、前田家が収集した名物裂コレクションは、今日でも国内最高の量と質を誇るのです。近年の調査では、前田家にて収集された裂は、書画や茶器にとどまらず、能装束や甲冑の裂地に用いられたことが明らかになりました。「小さな裂」ではなく、「大きな裂地」として持っていたからこそできたことです。

今回の展示では、金襴・緞子・間道だけでなく、ちいさな花文を全体に散らした「覆盆子裂」をはじめ、25点の名物裂を紹介いたします。



覆盆子裂



田中太郎〈音色〉

特集 毎田仁郎

1月4日(木)~2月12日(月・休) 会期中無休

第5展示室では、令和5年(2023)に没後30年を迎えた友禅作家・毎田仁郎を振り返る特集展示を開催します。

毎田仁郎は、明治39年(1906)に金沢市に生まれます。大正8年(1919)に犀川尋常高等小学校を卒業すると、京都在住で遠戚にあたる下村光胤に弟子入りし、昭和7年(1932)に京都で独立しました。しかし、第二次世界大戦のため疎開で金沢に帰り、戦後もそのまま金沢に留まり友禅の仕事を受け、堅実に足場を固めていきました。また、昭和24年(1949)頃より、後に重要無形文化財「友禅」保持者に認定される木村雨山に師事します。毎田の繊細な糸目糊置きと色挿しを評価した木村は、日本伝統工芸展への出品を勧めます。毎田は、自身が60歳となった昭和41年(1966)に日本伝統工芸展へ初出品し、昭和55

年(1980)に日本工芸会奨励賞、昭和63年(1988)に高松宮記念賞を受賞します。また、日本伝統工芸染織展では昭和52年(1977)日本工芸会賞、昭和59年(1984)東京都教育委員会賞を受賞するなど、作家としての確固たる地位を築きました。

展示では、日本伝統工芸展出品作のうち、受賞作を含む11点を紹介します。高松宮記念賞を受賞した《友禅訪問着「からまつ」》は、長野県の戸隠高原の松林で取材した作品です。肩と裾で色替わりにした落葉松を配し、その2つの間の白地は空に見立てて、下から落葉松を見上げたときの光景を描いています。

落ちついた色彩の中に、今もなお斬新なデザインとしてわたしたちを魅了する毎田仁郎の友禅の世界を、お楽しみください。



毎田仁郎《友禅訪問着「からまつ」》

琳派と五十嵐派

1月4日(木)~2月12日(月・休) 会期中無休

琳派は、17世紀初頭に刀剣の鑑定などを家業とする本阿弥光悦が中心となって京都で推進した造形運動を端緒として、後水尾天皇が主導した寛永文化で活躍した俵屋宗達によって表現様式が確立され、光悦、宗達に私淑した尾形光琳によってデザインとしても広く愛好されるようになりました。また、加賀藩3代藩主・前田利常は宗達の後継者、宗雪に重要な仕事を発注し、宗雪とその後継者、喜多川相説は金沢を拠点として作画にあたったと考えられています。さらに、草花を題材とした光琳作品の構図や描写には、相説からの明白な影響が認められます。相説の喜多川姓は宗達とも関係が深いとみられることから、宗達が遺した画稿類が宗雪をへて相説に相続され、相説によって光琳に示されたと推測することもできます。

そして利常は、寛永年間(1624~1644)に京都で足利將軍家に仕えた蒔絵の名門、五十嵐家の3世道甫を招き、加賀藩細工所の工人たちの指導に当たらせ、加賀蒔絵の基礎を確立しました。漆工の技術は、武器・甲冑の制作や修復で重要な位置を占めることから、加賀藩主・前田家は武器制作の高い技術を基盤として、芸術的な洗練度を追求した独自の様式の確立を支援しました。

このように、琳派と五十嵐派は加賀藩の文化政策に深く関わっていますが、光悦と五十嵐家、そして光琳の家系は、いずれも熱心な法華宗徒であると同時に、緩やかな血縁関係にあることも注目されます。さらには加賀における両派の興隆が、文化財保存修復思想の醸成と同時期である点も興味深いところでは



石川県指定文化財《光悦色紙貼交秋草図》(部分) 個人蔵

友の会会員限定！

VRシアター体験イベント

日時 2月11日(日・税) ①10:30~12:10
②13:20~15:10

近現代書(第6展示室)

近代からの書の風景

1月4日(木)~2月12日(月・休) 会期中無休

古代に中国大陸から漢字を受容して以来、日本の書は中国文化の影響を受けて発達し、近世期には「唐様」と呼ばれる中国風の書が、様々な立場の知識人によって書かれていました。明治に入り清朝との本格的な交流をきっかけに、北朝の碑の書風を学ぶ「碑学派」の本格的な移入があり、日本の書の世界に新たな書風をもたらしました。

また、書風の変化だけでなく、明治末からは書を専らとするグループが書道団体という形で結集して展覧会形式が普及し、次々に結成された集団によって今日の書道界の基盤が作られていきます。一方で書を勉強した一部の専門家たちだけでなく、教養として書をたしなむ文人や芸術家たちの書にも、書道団体とは一線を画した独自の表現が見られ、近代日本

の書を支えてきました。

大正期は西欧的な「美術」という新たな概念の出現によって、近世以来の日本の書画と言い習わされていた書も、近代的な美術あるいは芸術として位置づけようとする試みが出てくるなど、書を巡る環境はさらに変化していきます。昭和に入り戦後の昭和23年(1948)には、日展第五科で書の参加が認められる等、美術の諸制度も変化します。そして、様々な書道団体が参加する展覧会で、現在のような漢字書、仮名書、前衛書、篆刻といった細かな分類に従って多くは出品展示されていくのでした。今回の展示では、移りゆく近代日本という文化環境を背景に、各人各様の魅力あふれた書をご覧ください。

国宝《色絵雑香炉》の超高画質3Dモデルを、コントローラー操作によって360度お好きな角度からお楽しみいただけます。展示では見られない香炉の内側や裏側をご覧いただけるチャンスです！みなさまのご参加をお待ちしております。

※VRシアターの映像鑑賞後に体験を行います。すでにご覧になった方は、①11:20、②14:20の体験からの途中参加も可能です。

集合場所…2階コレクション展受付
定員…各回5組(1組4名まで/体験時間は1組5分程度)

対象…友の会会員のみなさまとご家族・ご友人
料金…無料 ※友の会会員以外の方は要観覧料

申込方法…往復はがき/メールに下記【必要事項】を明記の上お申し込みください。

【必要事項】参加者氏名(全員分)・会員番号・当日連絡のとれる電話番号(代表者のみ)・希望する会

往復はがきの場合、往信裏面に「VRシアター体験イベント希望」と明記の上、必要事項を記入、返信表面に返信先(ご自身の住所)をお書きください。

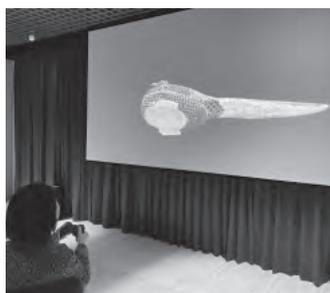
メールの場合、件名を「VRシアター体験イベント希望」とし、本文に必要事項をご記載ください。送信から一週間経っても返信がない場合は、お電話ください。

※申込はお一人様1通、応募者多数の場合は抽選。

宛先…〒920-0109 63 金沢市出羽町2-1-1

石川県立美術館友の会係 宛 または
ishibi@preishikawa.lg.jp

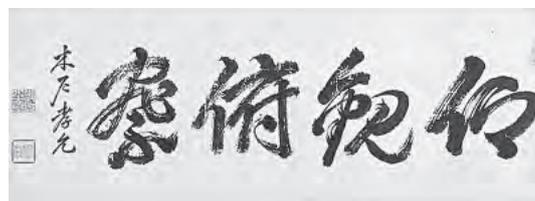
申込締切…令和6年1月19日(金)(必着)



操作中/雑香炉の裏側も見られます！



コントローラーを使って操作します



木戸孝允《仰観俯察》

学芸室の人々

竹内 唯(普及課学芸主任)

美術に興味をもったのは、小学校の図書館で美術全集を眺めるようになってからでしょうか。作家ごとに分冊になっているたくさん大きな本のなかで、ルネ・マグリットの作品が非常に印象に残りました。空に浮かぶ大勢の紳士、暖炉から飛び出す機関車、意味深に置かれたフランスパン……。絵の中では、現実ではありえないことも、変わったこともなんでも起こる！ 現実を離れた世界を体感できる美術の面白さに夢中になり、今に至っております。



鈴木 彩可(普及課学芸員)

静岡県にある浜松市秋野^{あきのの}不矩^{ふま}美術館は、わたしの原点ともいえる美術館です。地元から近いこともあり、小さいころから家族でよく訪れました。美術館には珍しく素足で鑑賞するスタイルで、幼いころは作品そっちのけで藤ござや大理石の床の感触を楽しんでいました。大きくなって作品に興味を持ち始めると、インドやネパールを描いたエキゾチックな雰囲気惹かれました。大学で仏教美術を選んだのも、この美術館のおかげかもしれません。ひんやりとした床に座って、じっくりと作品に向き合う。今でもそんな贅沢な時間を過ごさせていただいています。



1月の行事予定

27日(土)	「彫刻家・田中太郎―誠をつくす彫刻―」学芸主任 竹内 唯
20日(土)	「石川県立美術館所蔵品修復について」 学芸第二課長 寺川 和子
13日(土)	「前田綱紀の修復思想」 担当課長 村瀬 博春
■土曜講座	13時30分～15時 美術館講義室 無料
20日(土)	文化財の修復に欠かせない糊を仕込みます。 ※荒天中止
■寒糊炊き	9時30分～15時 文化財保存修復工房周辺 無料 申込不要
28日(日)	「よみがえったチエンバロ」 定員…200名 ※当日先着順 演奏…加藤純子氏
■ミュージアム・コンサート	13時30分～15時 美術館ホール 無料 申込不要
21日(日)	「石川県文化財保存修復工房の成り立ち」 講師…中越一成氏 (石川県文化財保存修復協会理事兼相談役)
■記念講演会	13時30分～15時 美術館ホール 無料 申込不要

《友禅訪問着「創生」》 ゆうぜんほうもんぎ そうせい

丈167.5cm 桁64.7cm
昭和54年(1979) 第26回日本伝統工芸展

毎田仁郎 まいだじんろう

明治39年～平成5年(1906～1993)



イヌマキの枝が、陽の光を受けてどこまでも広がっている風景を描いた着物です。白、臙脂色、藍の三色を用いて枝を染め分け、光と影や遠近を表しています。イヌマキの細長い葉一枚一枚は、友禅染特有の「糸目糊」によって、ごく細い輪郭線で描かれています。葉をフラットに染めるのではなく、繊細なグラデーションをつけ、さらに「打たし糊」という技法を用いて、まだらに模様が出るように仕上げ、枝にふっくらとした奥行を持たせています。

また、どこどこに臙脂と藍に染め分けた実を散らして、写実的な描写をデザインに適用した、「虫喰い」と呼ばれる加賀友禅特有の表現が見られます。これにより全体が単調に陥らず、生き生きと広がりを持った画面を展開しています。

地は銀鼠色を引き染めしていますが、枝の周りにはほんの少しだけ、ほんやりと白く染め残しており、イヌマキがより際立ち、山間の霧に包まれた、冷たい夜明けの空気を感じさせます。

タイトルの「創生」とは、新しく生み出すという意味です。新たな一日が始まる朝、生命力に満ちたイヌマキの枝に、新しい時代の友禅を作るという思いを込めたのでしょうか。シンプルなモチーフを、友禅ならではの技法を駆使して表しており、加賀友禅の名工と呼ばれるにふさわしい作品です。本作制作の翌年、作者は日本伝統工芸展で初受賞を果たしています。

次回の展覧会

令和6年2月17日(土)
～3月20日(水・祝)
会期中無休

前田育徳会
尊経閣文庫分館

第2展示室

天神画像と文房具

金沢城の絵師たち

第5展示室

第3・4展示室

第6展示室

特集 小松芳光
【工芸】

バリエーションズ
—画家たちの変奏曲—
【近現代絵画】

優品選
【近現代絵画・彫刻】

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 370円(290円)
大学生 290円(230円)
高校生以下 無料
※()内は団体料金

開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後6:00

1月の休館日は
1日(月)～3日(水)

「石川県立美術館だより」に広告を掲載してPRサービス・集客しませんか？

広報紙広告ならではの
メリット ▶▶▶▶▶

- 地域に根ざした情報発信
- 石川県での知名度向上
- 自治体発行の信頼度の高い広報媒体

他エリア自治体広告もお任せください！
092-716-1401

株式会社 ジチタイアド

福岡県福岡市中央区薬院1-14-5MG 薬院ビル7F 財源確保

※株式会社ホープの広告事業は、2021/12/1付で「株式会社ジチタイアド」に会社化しております。

石川県立美術館だより
第483号(毎月発行)
2024年1月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL <https://www.ishibi.pref.shikawa.jp/>

石川県立美術館は電源立地地域対策交付金を活用して運営しています。